

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや
ちくさ

題字 黒野 貞夫

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 ☎763-5110
会長 成田良治
幹事 鷲野義明
会報委員長 杉浦比左夫

No. 9

ロータリーを高めよ!

思いを尽くし熱意を尽くし!

1990~91年度 RI会長 ハウロ V.C. コスタ

第399回例会 平成2年9月4日(火) 晴

◇ “君が代”

◇ “それでこそロータリー”

◇ 出席報告

会員 68(67)名 出席 52名

出席率 77.61%

前回 8月28日 (修正出席率) 100%

◇ ビジター紹介 6名

◇ お誕生日祝福

小林夫人(9/3)、鈴木(理)夫人(9/5)

◇ ニコボックス

今枝 秀夫君 三男の自宅が新築出来ました。

成田 良治君 本日は大谷副会長に挨拶をお願いしました。

西村 禎二君 多忙な月でホームクラブ大変ご無沙汰致しました。

中山 信夫君 8月麻雀会で初めて優勝することができました。

三輪 康君 アレキサンドラ・シュベートさんに卓話をお願いしました。よろしく!

加藤 大豊君 日・韓ジュニア交流競技会に全国の選抜高校生300名を連れてソウルより2時間の人口20万チュンチョン市に日本の団長として1週間行って来ました。現地の知事・市長を始めVIP待遇で大歓迎を受けました。

水野 民也君 ゴルフ関係の皆様、太田さんのため1人の欠席もなく、明日はよろしく。

松島 孝彰君、西野 英樹君、安江 敏昭君 本日早退させていただきます。申し訳ありません。

小林 明君、鈴木 理之君 夫人誕生日祝い。

◇ 鷲野幹事報告

1. 9月18日(火)分区代理訪問クラブアセンブリー、10月2日(火)ガバナー公式訪問クラブアセンブリー10月15日(月)I.M.の出席義務者の方で、まだ欠席の返事を出されていない方は、事務局までご連絡下さい。

◇ 大谷副会長挨拶

9月になり、子供達も新学期を迎え、喜々として学校の門をくぐっているようです。9月、10月、11月は秋の季節で、昔から「物のあはれは秋こそまされ」といい、しみじみとした情趣を味わっていたようです。ポール・ヴェルレーヌも「秋の日のビオロンにこのためいきの身に沁みてひたぶるにうらがなし」と歌っていますから、秋の情感は洋の東西を問いません。

暦の上では、8月8日が立秋、空は入道雲と翳雲が行き交い、23日の処暑、立春から数えての三百十日の野分と、秋の気配が色濃くなってまいりました。先日の「ゆかた会」では、松楓閣のおおろぎの音(ね)が一段と味わいを深めてくれた気がいたしております。

9月は陰暦の「長月」ですが、夜長月が略されたものでしょうから、陽暦の10月上旬から11月上旬になります。すると「葉月」は、9月上旬から10月上旬になります。「興義抄」には「木の葉のもみちて落つるゆえ、落葉月といふを誤れり」または、初月一初来(はつき)。「雁のはじめて来る頃なり」とありますから感覚からいうとまだ少し早いようです。「文月」は、文披月(ふみひろげつき)で、七夕のために貸す文をひらくのです。8月上旬から9月上旬ということになります。陰暦を陽暦に合わせることは無理がありますが、季節的には文月から葉月への変わり目であります。

季節の変わり目は、体も変調を来すことが多いようであります。会員の皆様のご健康をお祈りして会長代理の挨拶といたします。

◇講演

“財団奨学生としての一年”

来日ロータリー財団奨学生

アレキサンドラ・シュベートさん



私がドイツからの新しいロータリー奨学生として皆さんの前で自己紹介してから、早いもので、もう一年になります。私はまったくの不安内で日本へ来たわけではありませんで

した。私の祖父母も、また私自身も以前に日本へ旅行していましたが、日本に関する多くのことを既に知っておりました。しかしながら、日本の大学の学生として滞在したこの一年は私にとってまったく新しい経験となったのです。私は日本に関しあらかじめ持っていたイメージや判断の多くを疑問視したり、あるいはまったく改めねばなりませんでした。日本についての考えのこうした変化は、しかし学生々活だけがもたらしたものではありません。もちろん当初は私の活動と関心は主に大学やその写真クラブ、そして学生寮の友人関係に限定されていました。でもすぐにこうした外国人特有の閉鎖性に気付いたのです。外国人学生寮に住み、日本語の集中コースに通っているだけでは、日常の範囲をはなれて新しいことを知る機会など、めったにありません。同様の文化を持った欧米人どうしがつきあう場合、問題はおろか困難すらないのです。そして私は大学の語学コースや写真のクラブを通じてだけ日本と取り組もうなどとは、思っていませんでした。そこで私は私の周辺の日本社会との接触の可能性を探ることにしたのです。

私はまず通訳や教師の仕事をいくつかひき受けてみました。そして二月の初めにテレビ局のアルバイトをした時には日本人の仕事のしかたを身をもって体験することになりました。

番組は二十代から三十代前半のスタッフによって制作されたものです。この若いチームは始めからうちとけやすさを持っていましたし、また生番組という事情も皆の良いチーム・ワークを必要としていたのだと思います。

野球シーズンや相撲の夏場所が始まり担当の番組や解説がにぎわしくなると私は日本にいることを、つくづく実感したものです。数週間前には子供向け番組のほんのちょっとした役どころをいただきました。「中学生日記」というこの番組のロケーションのため私たちは高山近郊の白河にまで足をのびたのです。

一週間にわたり朝から晩まで、どのようにしてテレビ番組が作られていくかを詳細に見る機会にめぐまれました。かんとく、はいゆう、カメラ、メイキャップ、デザインといった人たちの共同作業は夜を徹して続けられ、その熱心なふんいきに私も同席させていただきました。私にとってまったくいんしょう的でしたのは、私の役わりの小ささにもかかわらず私を一人前にみとめていただけたことです。普段の仕事の折には一方で制作の手伝いでありながら、他方でテレビの仕事に興味のある外国人という私の中途半端な立場から、しばしば困難生じたこともあったのです。しかしこれもまた日本的な仕事の進め方を知る上で、貴重な体験だったといえましょう。

日本でこの一年間に私は最も異なる文化をもっとも多く視点から考えさせられた、といえます。一番の重点は当然のことですが日本の伝統文化と経済力にありました。

しかしまた 私はドイツ人として、昨今のドイツの、激動にも関心を払わずにはいられませんでした。このテーマについて、私は非常によくご質問を受けましたし、また解説をたのまれたりしましたので政治上の変化に関わる具体的な情報と分析を常時入手する必要があったのです。さらにこの一年ほど、さまざまな国からいらっしゃった多くの人々と知り合う機会にめぐまれたこともありませんでした。このことだけでも、日本での一年が私の人生に新しい地平を開いたと断言することができます。そしてこれらのことはすべて、ロータリー奨学金のおかげでできたのです。一年の間、私がこの地で勉強できるよう、ロータリーが与えてくれたさいせいのえんじょうにたいし、私がどれほど感謝しているかは、まったくことばに言い表わせないほどです。また精神的にも、ロータリークラブの会員のかたがたのご協力を得られましたので非常にみりの多い滞在ができたと思います。とりわけ何か問題が生じるや即座にご助力下さいました私の保証人みわさんには、おれいのいいようがありません。名古屋でのこの一年は私にとって非常に思い出深いものです。

将来この地で過ごした日々のことをきつとなつかしく思い返すことでしょう。本当にいろいろとありがとうございました。

◇次回例会（9月11日）

講演 “大店法の運用適正化措置”

㈱社会システム研究所 代表取締役

前河 國輝 氏（紹介 青山君）

◇次々回例会（9月18日）

講演 “瀬戸の焼物”

瀬戸陶芸協会理事

川村 碩山 氏（紹介 佐野君）